

## 10月15日 タンポポハウス 公開保育を実施しました

タンポポハウスにおいて、神戸大学大学院准教授北野幸子先生と兵庫教育大学教授溝邊和成先生にご指導いただき、公開保育を実施しました。

幼児は週に一度、クラスの年齢を問わず、子どもが自分のしたい遊びを選び、楽しむ日を設けておられ、この日はその活動を見せていただきました。

これまでの遊びから、子ども自身が“やってみたい”“つくりたい”と思えるようにと、保育者が豊富な素材や道具を準備したり、発想やイメージを表現できるようにと環境を整えたりと、取り組んでこられました。この日も、好きなところで自分のイメージしたものを作り、作ったものを使ってのごっこ遊びや、作ったものを身につけて表現する遊びなど、様々な遊びが広がり、つながっていく様子が見られました。

どの年齢も、とても丁寧に指導案を書いておられ、北野先生から「ただ遊びを見守るだけでなく、そこの中にある育ちを見ようとしている指導案だった」との言葉をいただきました。保育を考えること、想定や予測をして保育に臨むことの大切さを、改めて学ぶ機会になったのではないのでしょうか。



## 参加園

岡田保育園  
さくら保育園  
昭光保育園  
相愛保育園  
平保育園  
タンポポハウス  
東山保育園  
ルンビニ保育園  
八雲保育園  
やまもも保育園  
うみべのもり保育所  
中保育所  
西乳児保育所  
  
倉梯幼稚園

## 物の数や量が程よく、あそびを想定して準備していることがわかる考えられた環境

素材や教材の豊かさが、考え、選ぶこと、遊びを楽しむことにつながる

～北野先生コメント～

## &lt;環境&gt;

各コーナーに様々な素材や教材、道具が取り出しやすいように準備されており、子どもたちが作りた、作ったもので遊びたいと思うような環境づくりをされていました。

素材に応じて道具を使い分ける姿や、慣れた手つきで操作する様子が見られ、普段からイメージした物をつくり、表現するという保育が展開されていることが伺えました。

## 【北野先生より】

◎好きな時に好きなことができて良い。させるための環境ではなく、したいと思えるような環境だった。

◎物の数や量が程よく、あそびを想定して準備していることがわかる考えられた環境。

◎素材や教材の豊かさが、考え選ぶこと、遊びを楽しむことにつながる。

◎子どもの興味・関心を起点に、保育者が育てたい力をイメージしながら素材や教材を準備する。

◎音響（CDデッキ）がお客さんに聞かせるためという視点ではなく、踊っている子どもたちが楽しく踊れるようにと考えられていた。子どもからの視点になって環境を整えることが大切。



## &lt;乳児の保育&gt;

## 【北野先生より】

◎行儀の良さを求めるのではなく、意思表示をたくさんさせていく。即行動に結びつくのが乳児期の姿。いざこざを通じて育つという視点を持ち、そのつど丁寧に関わり自己主張や自我の芽生えを大切にしていく。

◎手作りおもちゃは、子どもの様子、楽しみ方をみながら、色、形、音、数を工夫して作ったものが育ちや学びにつながる。

## &lt;ままごとコーナー&gt;

3歳児が中心にままごと遊びを展開。語彙豊かに、やりとりがなされていた。4、5歳児は作った食材を見学している大人に配る等、遊びが広がる様子を見せてくれた。

## 【北野先生より】

◎ままごとコーナーに素材があることで、食材づくりができる。レストランやお店屋さんなど、次の遊びへの発展につながる。  
◎次は調理道具と食器の数を充実させることで、遊びに広がりが生まれる。



## &lt;テラスでのダンス&gt;

衣装作りをしていた子どもから「おどりたい」という声上がり、そこから、手作り衣装を身にまとったダンスや歌のステージに広がる。

## 【北野先生より】

◎子どもの様子から、臨機応変に相互作用で一緒に作っていくのが保育の醍醐味。

◎主役は子ども。行事も同じ。見る人にとっては、子どもにとってどうか、子どもが楽しめているか、そこで何を学んでいるか、という視点をもつ。



## 公開保育カンファレンス～北野先生コメントより～



部分指導案で書くことによって、遊びの中で子どもの興味・関心を洞察し、教材と環境と子どもの相互作用を援助する力がついてくる  
評価の観点を持つことで、ねらいが達成されているか、自分の関わりや環境がどうだったかを構造的に評価し、振り返ることができる

## 【指導案について】

◎指導案から子どもの主体性を尊重して、洞察しながら、子どもとつくる保育をする力をもっていることがわかる。この日の保育の中に指導案そのものが出ており、考えて書かれたことが実践されていた。

◎“明日何しようか” “どこに何を置こうか”と思っていることを日案や部分指導案で書くことによって、遊びの中で子どもの興味・関心を洞察し、教材と環境と子どもの相互作用を援助する力がついてくる。

◎計画の段階から評価の観点をもつことで、ねらいが達成されているか、自分の関わりや環境がどうだったかを構造的に評価し、振り返ることができる。

## 【保育者の援助について】

◎時間だから片付けになり、ステージが終わった。子どもたちも誰も反対せずにスツと終わった。そこに保育者も子どももまじめさを感じる。小学校教育と保育の違いは、子どもと一緒につくる部分大きい。



シナリオ通りにいなくても子どもと相互作用で、時間の尺や教材の使い方等、予定と違う行動があつてよ

い。

◎「～せねば」「～すべき」ではなく、子どもの様子から臨機応変に相互作用で一緒に作っていくのが保育の醍醐味。保育者がリラックスして、肩の力を抜いて楽しむ。

◎3歳児には、まず保育者のモデルが必要。豊かな表現と楽しさを示し、次は促し、考える予知を与えること。選択肢を提示し、選ぶ機会や工夫する機会を持つ。

## 【振り返りについて】

<3歳児>

◎子どもの方から出てくるように問いかけの言葉を増やす。

◎「こんなバック作りたい人手を挙げて」と先生が完結してしまうのではなく、「じゃあどんなの作りたい？」など質問を増やし、言いたい気持ちを育てていく。

◎言葉の語彙を増やす為には大人が語彙豊かにしゃべることも大事。大人がしゃべるときには「○○ちゃんは○○な気持ちだったんだよね」など、主語を子どもにして話をしていく。

<4歳児>

◎紹介だけでなく発展させるためには、とりあげるトピックスが大切。

◎発表者だけに注目するのではなく、聞

き手に何が育っているのか、どんな力をつけたいのか、ねらいを明確にする。

◎「～して下さい」「じゃあ次は～」等シナリオや手順、期待していることが保育者の中にあつて当然だが、言葉としては減らしていけるとよい。

◎集中して話が聞けるのは20分程度。全員を取り上げなくてもよい。数人の子を取り上げ、取り上げたときの反応をつなげていく。20分間で展開するイメージを持つ。

<5歳児>

◎5歳になると自分がした遊びを保育者に話すのではなく、友だちに話す。誰に向かって話しているかを見ていく。

◎聞いている時のリアクションを見て、話をつなげる。話に加え、体験できる機会を作ることで、興味や理解につながる。

◎子ども同士をつなげるということは、言葉だけでつなげるのではなく体験や感情（共感する）をつなげる。



## 公開保育カンファレンス～溝邊先生コメントより～

## 【異年齢集団について】

◎年少が年長から、どんなアドバイスをもらうのだろうという期待と、自分のしたいことをサポートしてもらいたい、という関わりが大事。

◎年長が下の子どもにしていることはすべて先生がしていることを真似している。保育士がいかに見守るか、任せるか、声かけをいつするのか、ということ意識していくと、子ども同士の関わりにも、発展がみられるようになる。

## 【保育について】

◎ステージでサンドイッチがくぼられ、タイミングを見計らい、回収までしてくれ驚いた。子どもが主体的に、この場面ではこういうことをしたらいいんじゃないか…ということを考え、遊びの中で展開していける保育がよい。

◎サンドイッチの中身をあえて聞くことで、何が入っているかを理解、認識して分別できる。また、説明できるような対応をすることで、小学校以降の学習につながる。

## 【振り返りについて】

◎時系列の視点を用意する。写真等で提示することで、昨日からの変化の気づきにつながる。今日の頑張ったことの1つの視点となり、称賛されたり、自分が自慢できたりすることにもつながる。

